

## ゆふねさか 湯舟坂2号墳プロジェクト

近年、遺跡の再発掘や遺物を再整理する事例をみかけるようになりましたが、このプロジェクトは文化財を地域活性化の資源として捉えるものです。

1981年、京都府京丹後市久美浜町に所在する湯舟坂2号墳で発掘調査がおこなわれ、丹後半島最大級の横穴式石室をもつ円墳であることが判明し、金銅装こんどうそう双龍環頭大刀そうりゅうかんとう た ちを含む豊富な副葬品が出土しました。その2年後、遺跡は京都府指定史跡、遺物は国の重要文化財となり保護されることになりました。

それから40年。京都府立大学の諫早直人准教授（奈文研客員研究員）主導の本事業が同大地域貢献型特別研究（ACTR）に採択されました。目標は、市教育委員会・府立丹後郷土資料館および地元自治会と協働して最新の研究動向を反映させ、遺跡の新たな価値を見出すことです。私は高精細写真撮影の面で協力し、「正確かつ情報量の多い写真記録」を研究者はもちろん、地元でも利用し易い高品質な遺構・遺物写真として整備するお手伝いをしました。

7月24日、コロナ禍の合間を縫って久美浜庁舎で成果報告会がおこなわれ、広報資料印刷物は区長さんや府立大生がデザインする等、文字通りの協働イベントになりました。4Kディスプレイによる高精細画像解説や大きく引き伸ばした写真パネルを用いた学生解説とともに、私にも「再撮と新撮」のお題で発表の場が与えられ、実物を超えそうな迫力と親しみやすさを両立させる報告会となり、好評でした。

発掘40周年記念事業やさらなる価値発見を目指す調査が今後も計画されていますが、観光目的ではなく現地の方々が地域の魅力を感じられる資源化を目指している点がミソです。文化財が地元で生きて育つよう、最新の研究技術で応える取り組みを続けていきたいと思います。（企画調整部 栗山 雅夫）



巨大な双龍環頭柄頭が目を惹いた写真パネル展示